

進捗状況報告シート

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	日本語教育センター
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価(2011.5.1~2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2011年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2011年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価		
		2011	2012	2013
1. 日本語教育の全学的体制に係る新たな人事構想案を策定する。	人事構想案の策定状況 評価基準： A→人事構想案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	D		
2. 常勤講師の充足率を100%にするための見直し案を作成する。	見直し案の作成状況 評価基準： A→見直し案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	A		
3. 日本語教育センター内の連携・連絡体制案を策定する。	連携・連絡体制案の策定状況 評価基準： A→連携・連絡体制案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	A		
4. 日本語教員の資質・能力向上のための活動案を作成する。	活動案の作成状況 評価基準： A→活動状況案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	A		

☆

2012年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2011	2012	2013
	→			
	→			

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目 11.0.2	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。 (説明) 日本語教育センターの構成員は言語教育担当専任教員3名およびセンター長、特別契約教員及び任期制の常勤教員からなっている。2011年度には、新中期計画に基づき、常勤教員が1名増員された。しかし、特別契約教員が1名欠員の状態が続いていること、さらに、2011年7月から専任教員1名が病氣療養中であることから、全学の日本語科目の提供において余裕のない体制が続いている。
小項目 11.0.3	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。 (説明) 日本語教育担当の専任教員については、2010年度に1件の採用人事を行い、2011年度に1名経済学部に着任した。任期制教員については、「言語教育常勤教員に関する規程」に基づき、公募による採用候補者の人事を行っており、2010年度に2件、2011年度に1件の採用人事を行った。
小項目 11.0.4	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。 (説明) 2か月に1回日本語教育センター構成員による「拡大連絡会」を開催し、FD活動を推進している。また、年2回「関学日本語教育研究会」を開催し、内外の日本語教育関係者による教育実践の報告や講演などを行っている。さらに、各学期の開始前と終了後の非常勤講師を含めた講師会議の開催、センター独自の授業評価アンケートの実施、年5回の日本語教育センター通信及び年1回の日本語教育センター紀要の発行など、教育内容の充実と教員の資質向上を目指した取り組みを続けている。
その他	

《評価指標データ》

専任教員の年齢別構成【大学基礎データ】
 教員一人当たりの授業時間数【大学基礎データ】
 本学出身の専任教員の構成比率【基本的な指標データ】
 海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
 教員組織における実務家教員の占める割合（専門職大学院に限定）
 教員組織における女性教員の占める割合
 任期制教員（契約教員）の採用数
 公募制による採用教員の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注) 出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目 11.0.2	2010年度に2件、2011年度に1件の採用人事を行い、常勤講師の充足率は100%となった。しかし、特別契約教員は1名欠員のままであるため、その枠で2012年度中に常勤講師を1名採用し、しかるべき時期に特別契約教員の採用人事を実施する。
小項目 11.0.3	公募によって、2010年度に2件、2011年度に1件の常勤講師の採用人事を行った。
小項目 11.0.4	日本語教育センターが主催する「関学日本語教育研究会」では、活発なFD活動がなされており、その内容についても「日本語教育センター紀要」で詳細に報告されている。また、年5回「日本語教育センター通信」も発行している。
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注) 出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

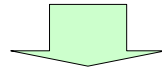
◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項

注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目 11.0.2	各学部・研究科に所属する留学生数の増加と日本語能力の多様化、本学の国際化に伴う短期集中日本語プログラム等の実施要請に応えるには、専任教員・常勤講師の増員が必要であるが、言語教育に携わる専任教員の人数は全学の申し合わせ事項となっており、日本語教育センターだけで必要な人員の確保を行うことができない。
小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目 11.0.2	関西の他大学における日本語教育科目の提供状況と専任教員の人数等を調査する。
小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★ その他 (自由記述)	
--------------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 ＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

- 「教育研究組織」の場合と同様、設定された「目標」は「案の策定」や「案の作成」となっていますが、「効果が上がっている事項」では「案」ではなく、実施された施策について記述されています。記述の整合性への配慮をお願いします。
- 小項目の11.0.2について、日本語教育センターだけで必要な人員の確保を行うことができないということですが、そのようなことは当初から分かっていたことではないですか。そのような制約条件の下でどうすべきかということを示すことが望ましいと思います。
- 提供科目（プログラム）と全体の教員数が本記述では分かりません。このことを示すことにより、教員の人数が適正であるか判断できません。特別契約教員、任期制常勤教員などの総人数も不明です。これらのことが編成方針に沿った教員組織の整備となります。
- 小項目11.0.3は、募集・採用・昇格が規程や手続きが明確であり、適切に行われているかということです。規程はあるのか、手続きが適切で公平かということです。従って、採用に関する規程やその実施方法について記述することが求められます。その次に成果が示されると良いと思います。
- FDについては、研究会や講演会、講師会議などの取り組みがなされています。
- 目標の進捗評価が「A」の場合は効果があがっている事項に、「D」の場合は改善すべき事項に記述が必要です。
- 効果が上がっている事項に記述されていることは、現状の説明です。どういう効果があがっているかの記述が求められます。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

III. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

○「効果の上がっている事項」の小項目11.0.2の記載を以下のように変更する。

「2010年度に2件、2011年度に1件の採用人事を行い、常勤講師の充足率は100%となった。しかし、特別契約教員は1名欠員のままであるため、その枠で2012年度中に常勤講師を1名採用し、しかるべき時期に特別契約教員の採用人事を実施するという案を作成し、学長室の了解を得た。」

○「現状の説明」の小項目11.0.2の記載を以下のように変更する。

「2011年度現在の日本語教育センターの構成員は言語教育担当専任教員3名およびセンター長、特別契約教員1名及び任期制の常勤教員3名である。2011年度には、新中期計画に基づき、常勤教員が1名増員された。しかし、特別契約教員が1名欠員の状態が続いていること、さらに、2011年7月から専任教員1名が病気療養中であることから、全学の日本語科目の提供において余裕のない体制が続いている。開講クラス数が44、開講コマ数が130と、他の第二言語と比較しても中国語や朝鮮語などと同様非常に多く、履修者の日本語能力もゼロ初級から超級までと幅広い中、現在の教員・教員組織では不十分であると言わざるを得ない。」

★ ○「現状の説明」の小項目11.0.3の記載を以下のように変更する。

「専任教員の採用人事は、日本語教育センターから2名、センター外から3名の計5名からなる採用人事委員会を開催し、原則として公募を行うことで、透明性を担保している。常勤教員の採用に関しても同様に採用人事委員会を開催し、公募を行っている。また、専任教員の昇任人事は、所属する各学部の方針に従い、また、言語教育研究センターの規定に基づいて行われている。常勤講師の契約更新についても、教育・研究業績を精査した上で、センター運営委員会で審議するなど、適切に行われている。」

○「効果の上がっている項目」の小項目11.0.3の記述は削除する。

○「効果の上がっている項目」の小項目11.0.4の記述を以下のように変更する。

「目標3の達成に向けて、センターの執行部による連絡会に加え、センターに所属する全教員が参加する「拡大センター連絡会」を月1回開催するという案を策定し、実施している。さらに、目標4を達成するため、日本語教育センターが主催する「関学日本語教育研究会」におけるFD活動の実施案を作成し、すでに2011年度から実施している。その内容は2011年度3月刊行の「日本語教育センター紀要」で詳細に報告されている。」